



「授業料値上げ」の考え方、 日米の違い

伊藤隆敏
コロンビア大学、
国際関係・公共政策大学院教授
日本経済学会2025年春季大会
2025年5月24日

アウトライン

- 授業料収入の大学財政における役割
- 授業料についての大学の考え方
- 授業料についての学生の考え方

日米授業料比較、2025年4月現在

- 東京大学授業料
- ¥642,960
- ドル換算
- **\$4,286.4**
- (at 150.00 yen/\$)



- Columbia University
- Tuition \$71,170



- **Tuition only**
- **\$71,170**

この他に、寮費・食費で、
\$17,580. 寮生活はほぼ必須

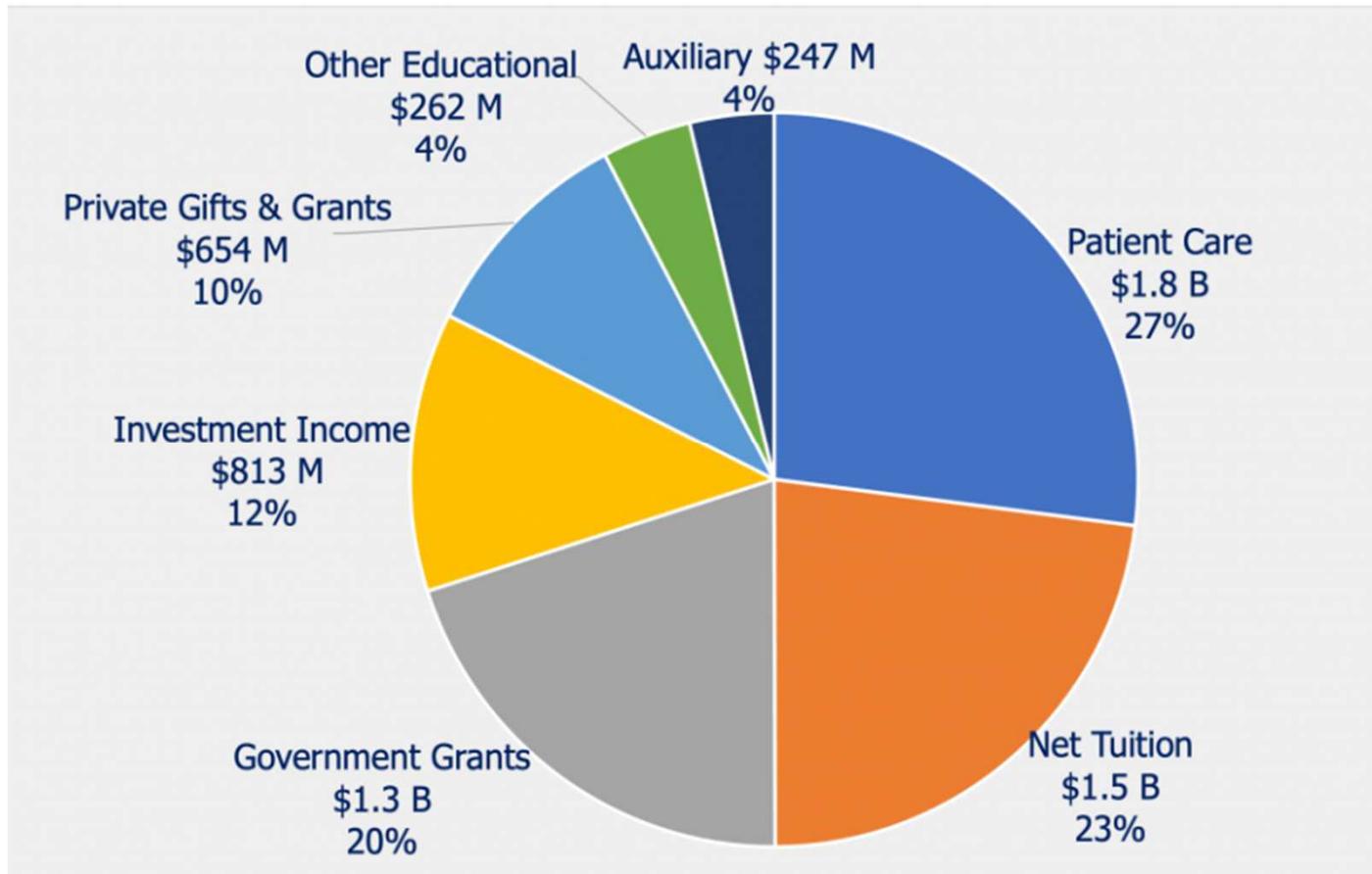
アメリカの大学のグループ分けと授業料

- 研究重視、私立(ハーバード、コロンビアなど)
 - \$71,000
- 学部教育重視(大学院なし)、Liberal Arts college,
 - Williams College \$ 72,170
- 州立大学(州により研究重視のところもある、受験時に州在住受験生には安い授業料(in state tuition)、州外からの受験生には高い授業料(out of state tuition))
 - University of California、in-state, \$14,934; out of state, \$50,328
 - University of Minnesota, in-state, \$16,654; out of state, \$36,568
- なぜ、州立大学は州内の子弟の授業料を補助しているのか？
 - 高等教育の外部性(企業誘致)
 - 州税(所得税)を支払ってきた家計への補助

大学財政に占める授業料収入、日米比較

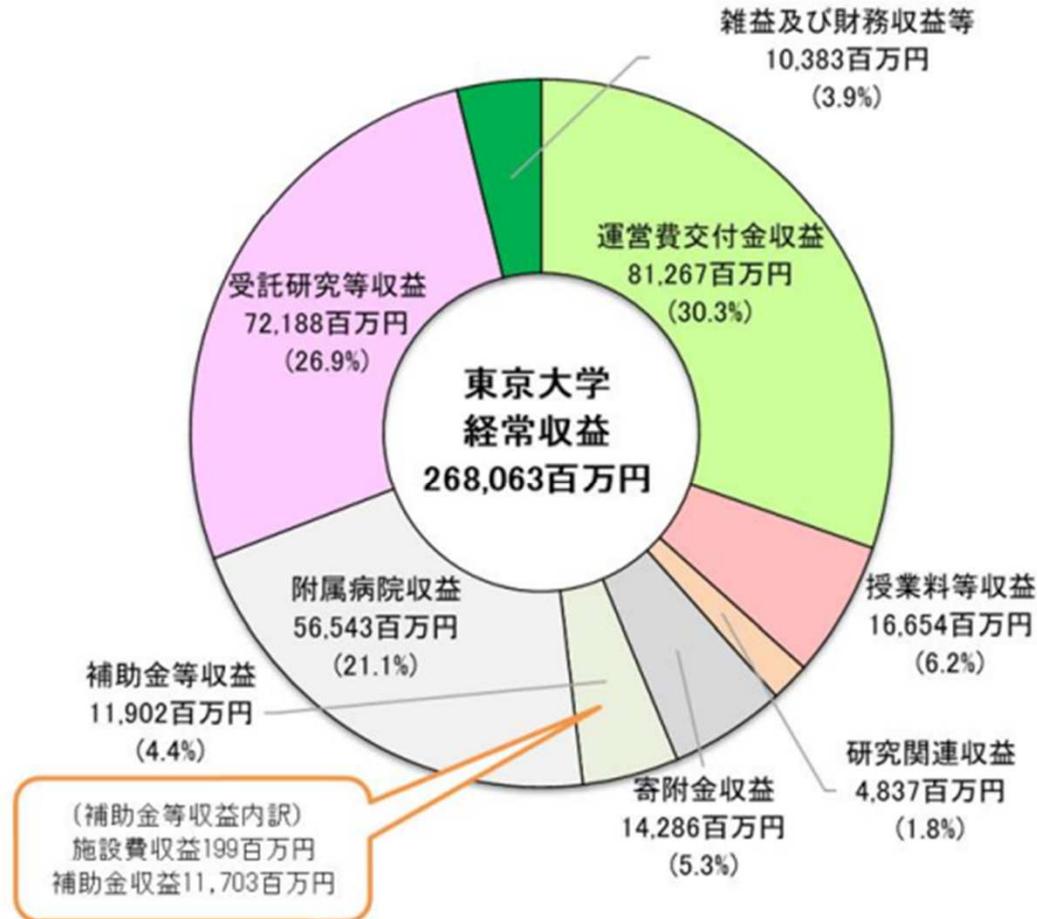
- 授業料収入 全収入に占める割合
 - コロンビア大学、23%
 - 東京大学、6.2%
- 他の主な収入源
 - コロンビア大学、政府からの補助金 (Grant) 20%、大学基金からの収益 (Investment Income) 12%、個人・企業からの寄付10%
 - 東京大学、運営費交付金30%、受託研究等収益27%、寄付金5.3%
- 注、
 - 両校とも、病院収入が4分の1程度を占めている

コロンビア大学収入



東京大学令和5年事業年度決算

chrome-extension://efaidnbnmnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400246516.pdf

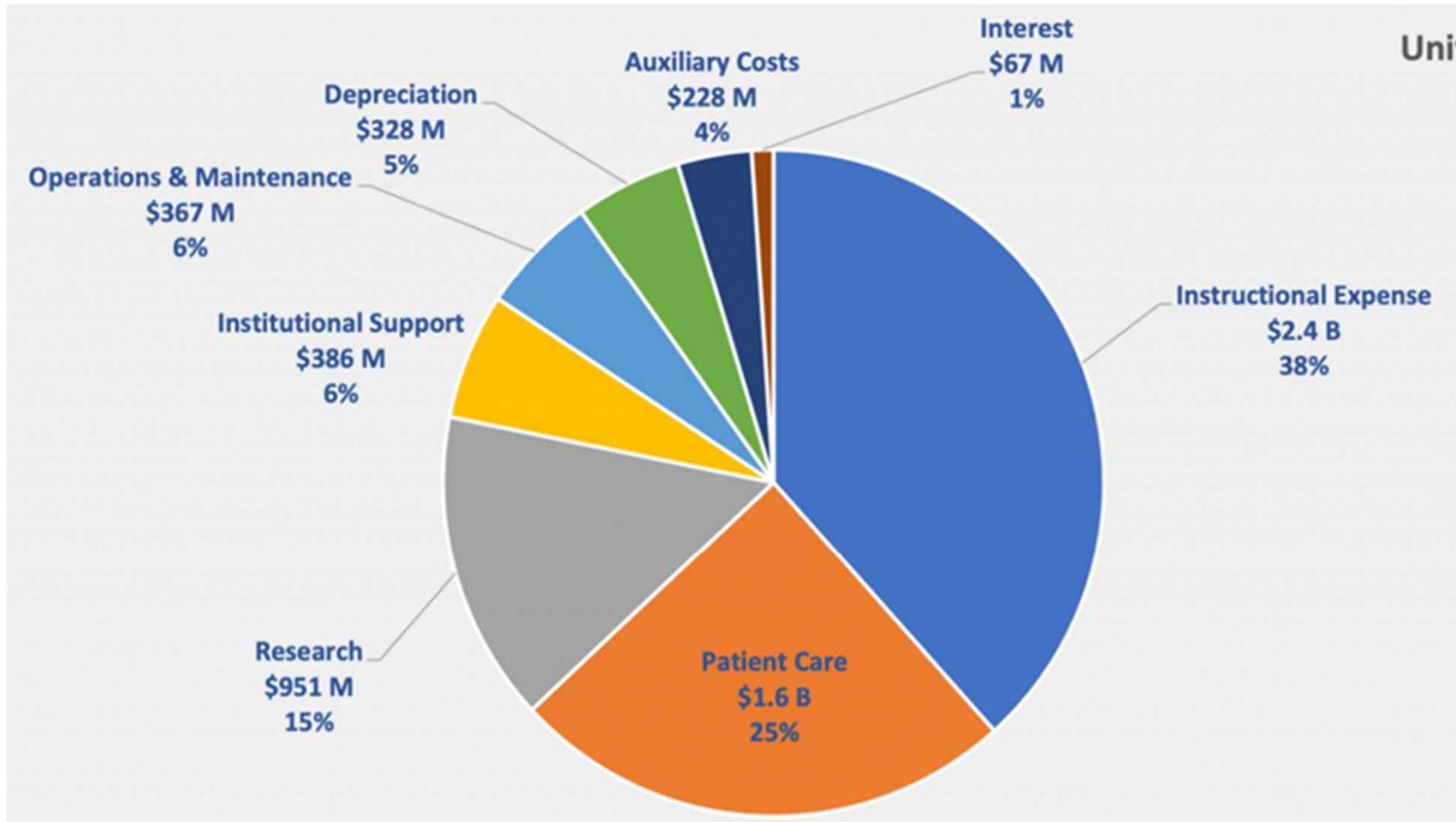


※ 研究関連収益は科学研究費助成事業等の間接経費である

出所: 東京大学令和5年度事業報告書(第20期事業年度)

コロンビア大学支出

<https://www.columbia.edu/content/financial-overview>



授業料について大学の考え方

- アメリカ
 - 重要な収入源のひとつ
 - 大学の「魅力」を高めて、授業料を引き上げる、さらに高い授業料を払っても良いという志願者数を引き上げる。
 - 大学の魅力は、研究力に優れている、一流の教授陣を揃えている、教育の質の評価が高い、キャンパス生活が有意義、など
 - Miguel Urquiola, Markets, Minds, and Money: Why America Leads the World in University Research, Harvard University Press, 2020
- 日本
 - これまでは重要な収入源とは考えられていなかった
 - 授業料は国が決めるもの（法人化以後、限定的は自由度は与えられたが）
 - 授業料と大学の魅力はリンクしていない

授業料について学生の考え方

- アメリカ
 - 授業から得られる知識への対価として支払う
 - 魅力のある授業を提供されなければ、不満を表明
- 日本
 - 授業料と大学の教育、研究とのリンクの意識はない
 - 安ければ安いほど良い

授業料の値上げ

- 日本の大学の財政は自主性、自立性を得るためには、必要な措置
 - 高い授業料が払えない(が優秀な学生)には、奨学金制度を拡充で対応
- 学生にとっての授業料。現在の低い授業料が政府からの補助金(運営費交付金)によって支えられている。授業料は個人が大学で学ぶことによって得られる個人的利益(大学卒業による生涯賃金の上昇分)をはるかに下回るのではないか？
 - 授業料が引き上げられることで、学生から大学の授業の質を高める圧力になるかもしれない。
- 大学授業料無償化の問題点。大学間競争(高い授業料で、より質の高い授業、より高い研究力を獲得)を妨げる可能性。大学生への奨学金で対処すべき。

まとめ

- 授業料の大学にとっての役割、学生にとっての理解には日米で大きな差がある。
- 日本の大学の授業料が今後引き上げられることは、大学の財政の自主性を高める、学生が授業の価値の認識を高める、良い効果を持つ
- 日本の大学間の差別化(国際卓越大学、研究大学、教育重視大学、など)が進む、それに応じて授業料の差別化も起きるだろう。